

(別紙1)2023年2学期調査対象科目・放送授業(テレビ・ラジオ)

科目名/主任講師名	コース/カテゴリ/単位数	メディア	概要
疾病の成立と回復促進 (' 21) 岡田 忍(千葉大学大学院教授)、佐伯 由香(愛媛大学大学院教授)	生活と福祉/学部/2	TV	疾病によって引き起こされる様々な身体内部の変化と生活への影響、疾病の回復過程とそれを促進する要因についての知識は、疾病を予防し、疾病に対して適切な医療、看護を提供するために不可欠なものである。本講義では、看護師が疾病の成立と回復促進を理解することの必要性、疾病の原因とそれによって細胞や組織に生じる変化、基本的な病変の成り立ち、疾病に対して提供される医療についての講義を行ったうえで、生命活動や生活にどのような障害をもたらすのかという視点から、様々な疾病について解説する。
学習・言語心理学 (' 21) 高橋 秀明(放送大学教授)	心理と教育/学部/2	TV	本科目は、人の行動が変化する過程を扱う学習心理学の領域と、言語の習得における機序を扱う言語心理学の領域とを扱っている。言語を操ることは人間の特質であると同時に、人間の行動とその変化とは人間心理を客観的に研究することのできる対象であり、心理学の中で基礎的な領域といえる。本科目は、このような観点から人間の行動と言語、ならびに研究方法について概説するものである。本科目のターゲットは、主に心理学を専攻し、心理学関連の資格(公認心理師、認定心理士、ならびに本学認証制度「心理学基礎」)を目指すものであるが、心理学に関心を持つ他コースの学生にとっても興味深い科目になると考えられる。
地球温暖化と社会イノベーション (' 18) 六川 修一(防災科学技術研究所主幹研究員)、向井人史(国立環境研究所気候変動適応センター長)	社会と産業/学部/2	TV	温暖化に代表される地球環境問題は人類ならびに地球全体の問題である。これまで、温暖化の原因研究や将来の影響予測等とともに、緩和策・適応策に関する研究や議論がIPCCやCOPの場で長く行われてきた。そして、2015年COP21「パリ協定」が締結され、ようやく途上国、先進国が一丸となって、温度上昇の目標設定、緩和量の各国目標設定、資金提供、これらに対する観測、報告、評価などに向けて初めての一貫した方針が出された。本講座では、これまでの地球温暖化問題の研究の歴史とともに研究成果を整理した後、政府、企業、研究機関、市民それぞれの現在の取り組み内容を俯瞰し、この問題解決のために人類が取り得る行動とその可能性について考える。
博物館情報・メディア論 (' 18) 稲村 哲也(放送大学名誉教授)、近藤 智嗣(放送大学副学長)	人間と文化/学部/2	TV	博物館は、展示による情報の発信のために、さまざまなメディアを利用する。一方で、博物館自体が、展示を通して、さらには博物館全体として、社会に情報を発信するメディアそのものだとも言える。そうした「メディアとしての博物館(展示)」の観点から、この講義では、多様な博物館の具体的な事例を通して、博物館の展示とは何か、情報とメディアとは何かを考えると共に、展示に関わる情報とメディアの手法、技術、理論、利点、課題などを包括的に学ぶ。第一義的には学芸員資格のための科目であるが、情報やコミュニケーションや文化に関心のある学生、一般の受講者にとっても、幅広い教養を楽しく学べる内容である。
Webのしくみと応用 (' 19) 森本 容介(放送大学教授)、伊藤 一成(青山学院大学教授)	情報/学部/2	TV	日常生活や仕事を進める上で、Webは重要な役割を果たしている。Webの仕組みやWebシステムを実現するための技術を学び、普段意識せずに使っているWebの裏側を理解する。さらに、Webの関連技術やWebを使った応用システムについて学ぶ。
量子物理学 (' 21) 松井 哲男(放送大学特任教授)、岸根 順一郎(放送大学教授)	自然と環境/学部/2	TV	量子力学の基礎とその重要な応用について講義する。導入や基礎的な応用事項は主任講師の松井(放送大学教授)と岸根(放送大学教授)が担当する。また、京都大学の川合光教授にも発展的な内容について客員講師をお願いした。
学校臨床心理学特論 (' 21) 倉光 修(放送大学特任教授)	人間発達科学/大学院/2	TV	今日、学校の中に臨床心理学の知識と技能を持ったカウンセラーがいて、心理的問題に苦しむ子どもたちに対するカウンセリングやプレイセラピー、保護者に対する相談や教職員に対するコンサルテーション、緊急支援や心理教育、関連分野の専門家や地域の人々との連携などに取り組んでいることがよく知られるようになってきた。このような取り組みは、1995年に、文部省(当時)によって公立中学校を中心としてスクールカウンセラーを派遣するようになって以来、飛躍的に発展してきた。本科目では、学校に関わるこうした臨床心理学的支援について幅広く論じる。

科目名/主任講師名	コース/カテゴリ/単位数	メディア	概要
感染症と生体防御 (`18) 主任講師名: 田城 孝雄 (放送大学教授)、北村 聖 (地域医療研究所シニア アドバイザー)	生活と福祉 /学部/2	R	本講義は、人間の健康について広範に論ずる「健康科学」の中の講義の一つとして実施される。健康科学は人間生活に密接に関わる学問であることから、感染症関係では昨今の話題であるHIV、結核はもとよりSARS、新型インフルエンザなどの新興・再興感染症と医療現場での感染症問題に特に焦点を当てた。また、生態防御については、免疫システムの多様性と多型性、自然免疫と獲得免疫、自己免疫と免疫が関与する疾患などを中心に免疫学の最近の動向についてわかりやすく疾患との関係も踏まえながら講義を行う。
看護管理と医療安全 (`18) 主任講師名: 大島 弓子 (放送大学客員教授)、飯島 佐知子 (順天堂大学教授)	生活と福祉 /学部/2	R	臨床における看護管理とは、患者や家族に看護ケア、治療への助力、安楽を与えるために看護職員が行う仕事の過程である。本科目ではマネジメントサイクル、組織構造、看護提供システム、目標管理、キャリア開発、リーダーシップ理論、労務管理、看護の質の評価と管理、情報管理等について講義する。医療安全では、医療事故の定義、看護業務における医療事故の分類、看護事故防止の考え方、注射、輸液、内服、経管栄養、チューブ管理、転倒・転落、入浴中の事故の防止など看護関連事故の具体的方法について講義する。
心理と教育へのいざない (`18) 主任講師名: 田中 統治 (東海大学特任教授、放送 大学名誉教授)、向田 久 美子(放送大学准教授)、 佐藤 仁美(放送大学准 教授)	心理と教育 /学部/2	R	導入科目としての本科目では、教育学・心理学・臨床心理学に興味を持ち、主に、心理と教育コースを志望する科目履修生や選科履修生、及び本コースに入学した全科履修生を対象に、これらの学問全体のガイダンスと、基礎知識を学ぶ。三領域の各特徴を学びながら、教育学・心理学・臨床心理学に関する導入的な思考方法と視点を身につけること、そして学びを積み上げ、本コース内での自身の専門領域と分野を見つけていくことを目的としている。
線型代数学(`17) 主任講師名: 隈部 正博 (放送大学教授)	自然と環境 /学部/2	R	初めに高等学校で学んだ平面や空間におけるベクトルの扱いを復習する。また、内積、外積を定義し、ベクトル空間に内積を取り入れることで、長さや角度が表せることをみる。こうして得られる計量ベクトル空間において、正規直交基底が構成できる。また、空間において形を変えない変換すなわち合同変換を例をあげながら解説し、その行列表示として直交行列を学ぶ。次に、ベクトルや行列の成分を複素数とすることで、複素ベクトル空間を考える。空間における基底の変換は本講義で重要な手法で復習を兼ねて講義する。その後、対称行列に基底の変換を施し対角化できることをみる。一般に、行列が対角化できるための条件や特徴付けを考える。与えられた行列はいつも対角化できるわけではないが、三角化と呼ばれる形、またジョルダンの標準形と呼ばれる形に変形する方法を学ぶ。次に、2次曲面を行列を用いて表すことを学ぶ。そしてこれまでの知識を応用して、2次曲面を標準形とよばれる形に変形し分類する。
生活リスクマネジメント (`17) 主任講師名: 奈良 由美子 (放送大学教授)	生活健康科学 /大学院/2	R	生活の質を高めるうえで生活リスクを理解し低減することは不可欠である。このことは生活者自身はもちろん、地域、企業、行政といったリスク管理主体を含めた社会全体の課題といえる。本科目では、リスクの様相の局面、リスクの認識の局面、そしてリスクへの対処の局面から、生活リスクマネジメントの理論と実践についての講義を行う。
情報学の技術(`18) 主任講師名: 中谷 多哉子 (放送大学教授)、辰己 丈夫(放送大学教授)	情報学/大 学院/2	R	コンピュータ上で稼働する情報システムは、我々の生活を支え、様々な利便性を提供してくれている。このような情報システムを作るためには、様々な分析技術と設計技術が必要となる。本講義では、高度なネットワーク環境上でコンピュータを活用するための情報技術、人と人の相互理解に使われる情報技術、情報システムを開発する技術といった多様な技術を学びながら、それらが我々の社会生活を支えるために果たしている役割を理解する。
計算論(`16) 主任講師名: 隈部 正博 (放送大学教授)	自然環境科学 /大学院/2	R	最初に、言語、文法とは何かを考える。次に現代言語学の父といわれるチョムスキーの定義した様々な形の文法を学び、それによってどんな言語が生成されるかをみる。次に計算という概念について考える。言語を構成(計算)するための機械であるオートマトンを定義し、様々な種類のオートマトンの形を学ぶ。その後、計算機科学の父といわれるチューリングの定義したチューリング機械を理解し、多くの計算がチューリング機械をつかって表現できることをみる。最後にアルゴリズムとは何かを考える。